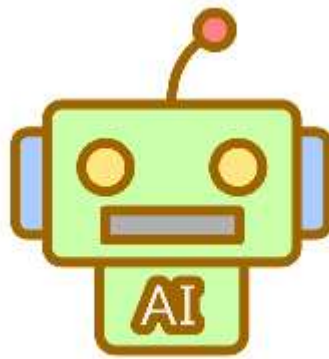


菊川市教育委員会 生成AI利用ガイドライン



第1版

作 成 者	菊川市教育委員会 学校教育課
作 成 日	2024年10月24日
最終更新日	2024年10月24日

改定履歴

版数	日付	改定履歴
第1版	2024/10/24	初版

目次

はじめに.....	- 1 -
生成 AI の概要.....	- 2 -
基本方針.....	- 4 -
活用事例.....	- 5 -

はじめに

ChatGPTが登場して以来、生成AI領域の技術革新やサービス開発が飛躍的なスピードで進展しています。生成AIは、文章、画像、プログラム等様々なコンテンツを生成できる人工知能で、ユーザが指示をすると求める条件にあった情報を自然な文章等の形で出力してくれます。一方、生成物には虚偽が含まれていたり、著作権侵害のリスク等課題も指摘されたりしており、活用の仕方には慎重さも求められるところです。

Society5.0を生き抜く子どもたちには、このような新しい技術に対応できる情報活用能力の育成が必要です。一方で、児童生徒の利用にあたっては、生成AIの特性を理解するとともに、情報の真偽を見極める等リテラシーが求められます。

このことから、本ガイドラインは、生成AIの利便性や留意点を明示した上で、教育現場における効果的な活用につなげていくことをねらいとして策定しました。

本ガイドラインの利便性、懸念点、活用例等については、全国の事例を参考に記載しています。

今後も進化を続ける生成AIの情報収集を行い、学校現場の優れた取組や幅広い関係者からのご意見を踏まえて機動的に本ガイドラインの改訂を行っていきます。



生成AIの概要

生成AIとは

コンピュータがインターネット上の大量のテキスト等のデータを学習し、そのパターンや関連性を理解して、質問の指示を踏まえ、まるで人と対話しているかのような文章で回答することができるサービスのことです。

質問の中の言葉に対し、学習した莫大な量のデータやルールをもとに、それらしい回答をするのが生成AIです。

あたかも人間が考えて答えているように感じますが、あくまで、機械的に学習した情報を元に回答しています。莫大なデータをもとにしているため、ある程度の精度をもった回答が得られますが、次のような問題点があることも事実です。

- ときどき間違える
- 根拠が薄い
- 著作権の問題がある
- 情報漏えいの恐れがある
- 人間の思考に影響を及ぼす可能性がある

そのため、生成AIの利用には、回答はあくまでも「参考の一つに過ぎない」ことを十分に認識し、最後は自分で判断するという基本姿勢が必要です。また、回答の内容について判断し修正するためには、対象分野に関する一定の知識や自分なりの問題意識とともに、真偽を判断する能力も必要となります。

生成AIの種類

生成AIの種類には、画像生成、テキスト生成、動画生成、音声生成等いくつかの種類があります。用途に応じて生成AIを使い分けることで、希望している形に近い回答を得ることができます。

- 画像生成
テキストの内容に応じてAIがオリジナル画像を生成します。
- テキスト生成
質問を入力すると、AIが質問の内容を解析して回答を生成します。
- 動画生成
テキストで生成したいイメージを入力すると、そのイメージに沿った短い動画を生成します。
- 音声生成
音声データを入力すると、その音声の特徴を学習し新しい音声データを生成します。
現在は、上記の複数種類のデータの入出力が可能なモデルの生成AIが主流になっています。

(参考) 主なAIサービスの概要

	ChatGPT	Copilot	Gemini	Canva
提供主体	OpenAI	Microsoft	Google	Canva
利用規約上の年齢制限	13歳以上 18歳未満の場合は保護者同意	成年であること 未成年の場合は保護者同意	13歳以上	13歳以上 13歳未満の場合は保護者同意
利用料	無料版と有料版がある	無料版と有料版がある	無料版と有料版がある	無料版と有料版がある
プロンプトの機械学習の有無	有 ※機械学習させないよう設定が必要	デフォルトで機械学習をさせない設定	有 ※機械学習をさせないよう設定が必要	

生成AIの利便性

生成AIの利便性として次のような事項があげられます。

1. 自動生成による効率性
プロンプト（AIに対する指示）を入力することで、指示に沿った文章やアイデア等を自動で瞬時に生成することができます。
例）文書作成の時間の短縮、短時間でのアイデアの創出
2. 言葉の壁を克服
多言語への対応が可能であり、外国語と日本語間の翻訳や文章作成を自動で生成することができます。
例）日本語で作成した文章の多言語化、英作文の確認
3. 専門知識への対応
専門的な知識の要約や解説、情報の整理等、質問者が必要とする情報を収集、生成することができます。
例）専門用語等の理解度に合わせた説明、会議録の要約
4. 教育への支援
教材や学習資料の作成、演習問題の作成、概念の説明等教育活動を支援する情報を生成することができます。
例）ソフトやアプリケーションの使い方、テスト問題の素案作成

生成AIの留意点

生成AIの留意点として次のような事項があげられます。本市において利用する場合についても、下記の対策を適切にとる必要があります。

	留意点	対策
教職員	● 個人情報流出 ● 著作権侵害 ● 誤情報・偽情報 ● 情報の偏り ● 著作権や肖像権の侵害	◆ 機密情報や個人情報は入力しない ◆ 利用前に生成AIの概要を認識する ◆ 対外的に利用する場合、生成された情報の真偽を確認する ◆ 正確性が確認できない場合、対外的に利用しない ◆ 著作権等を侵害する可能性がある場合、対外的に利用しない
児童生徒	● 情報モラルの定着度 ● 年齢制限等規約の遵守 ● 思考力・判断力の低下 ● 生成AIの理解不足 ● 保護者同意の上で利用している認識	◆ 機密情報や個人情報は入力しない ◆ 情報モラルを含めた情報活用能力を発達段階に応じて育成する ◆ 保護者同意等の利用規約を遵守する ◆ 使用上の留意点を指導する

基本方針

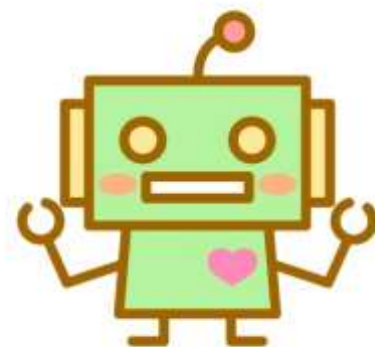
基本方針

生成AIを含めたデジタル技術は、今後、社会全体に一層浸透し、避けては通れない存在になるととらえています。このような社会を生き抜いていく子どもたちには、新たなデジタル技術に対応し、適切に活用していく情報活用能力を身につけていくことは必須であると考えます。

児童生徒だけでなく、個人情報や機密情報の保護に細心の注意を払いながら、教職員が業務の効率化や質の向上等、働き方改革の一環として活用することも考えられます。また、教員自身が新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点、賢い付き合い方を知っておくことが近い将来に教育活動で適切に対応する素地を作ることにも繋がります。

このことから、生成AIの教育利用について次のように考えます。

1. 児童生徒の授業における利用については、子どもの発達段階や実態を踏まえ、年齢制限・保護者同意等の利用規約の遵守を前提に、教育活動や学習評価の目的を達成する上で、生成AIの利用が効果的かどうかで利用の判断をします。
2. 児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力や情報モラル等を育む教育活動を一層充実させていきます。
3. 生成AIを児童生徒が授業で利用する場合は、教育効果や利用リスクを十分検討した上で、教職員の指導の下、段階的に活用を検討していきます。
4. 教職員の校務での活用は、留意事項や利用方法を熟知した上で、業務の効率化や教育効果の向上に寄与する取組を進め、その取組を他学校と情報を共有しながら、適切な活用を推進します。



活用事例

校務での活用事例

- 考えられる活用事例
 - 授業やテストの問題を作成する上で、問題文や設問案を生成し、素案として利用する。
 - 報告書等の定型文書を作成する上で、生成された文章を参考にして文書を作成する。
 - ソフトやアプリケーションの使い方マニュアルのたたき台を生成する。
 - 保護者用の連絡文書のたたき台を日本語ではない他言語で生成する。
 - 教材や配布物に必要な画像、動画や音声を作成する。
- 不適切な活用事例
 - 通知表等の所見に記載する内容を生成し、作成された文章をそのまま利用する。
 - 生成された文章を教職員や学校の思いが正しく表現されているか確認せずに、保護者通信等に利用する。
 - 教職員が専門性やコミュニケーションを通じて対応すべき教育的指導を行わず、安易に生成AIに相談させる。
 - 児童生徒の学習評価を教員がAIからの出力のみをもって行う。

学習活動での活用事例

- 考えられる活用事例
 - 情報モラル教育の一環として、教員が生成AIの生成する誤りを含む回答を教材として使用し、その性質や限界等を児童生徒に気付かせる。
 - グループの考えのまとめやアイデアを出す活動の中で、意見が出尽くした上で、不足している視点を見つけ、議論を深めるために利用する。
 - 英会話等の英語表現の確認やより自然な英語表現に改善するために利用する。
 - 高度なプログラミング学習を行うために利用する。
- 不適切な活用事例
 - 生成AIサービスの利用規約に反した利用を行う。
 - 情報活用能力が育っていない状況で安易に児童生徒へ利用させる。
 - 児童生徒が感性や独創性、発想力、思考力を駆使して使用する場面で生成AIを利用する。
 - 各種課題（レポート等）について、生成AIによる生成物をそのまま自己の成果物として提出する。